



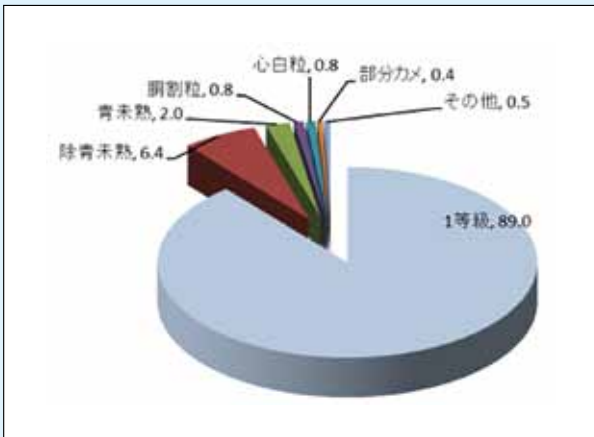
## 特集 稲作情報

# 平成27年産を振り返って

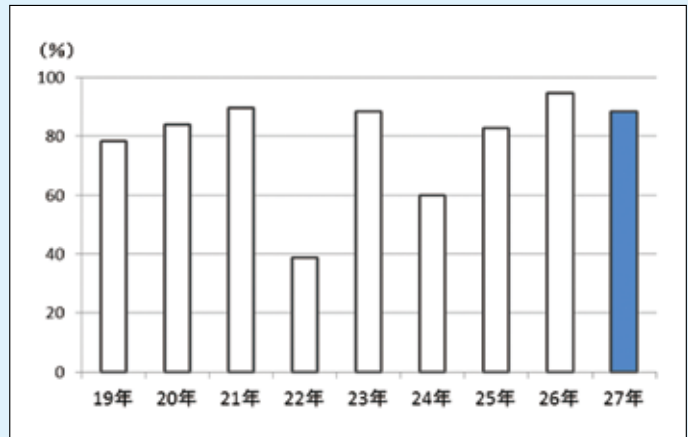
平成27年産コシヒカリは、出穂前までは順調に生育していたものの、出穂後の低温・日照不足に大きく影響を受けた年でありました。そのような中、生産者並びに関係機関・団体が一丸となり品質向上対策に取り組んだ結果、1等級比率は89%を確保しました。しかし、地域差や個人差が大きく課題も残った1年でした。

一方、米消費の減少やTPPによる影響、産地間競争の激化など稲作を巡る情勢は刻一刻と変化しています。今、産地に求められているのは、『他との明確な違い』です。農家の皆さんの情熱と基本技術の励行により栽培されたお米を食味・品質分析機によりデータ化し、区分販売する体制がJA北魚沼では整っており、『明確な違い』として消費者へしっかりと伝わっております。JA北魚沼は『王者』として消費者に選ばれ続けるため、未来に向かってチャレンジを続けます。

平成28年度も、北魚沼地域一丸となってコシヒカリの1等級比率95%以上の回復をめざし重点対策の徹底を図りましょう。



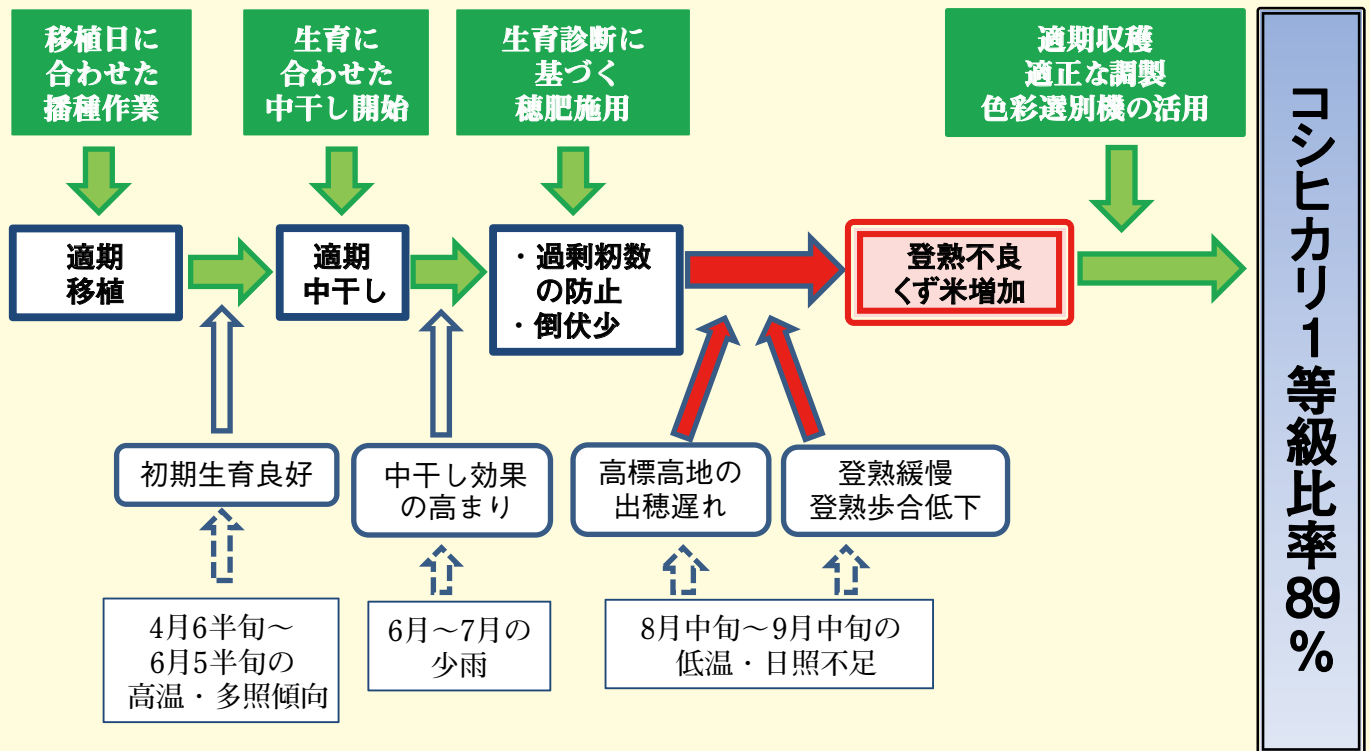
コシヒカリの1等級比率と格落理由



1等級比率の年次推移

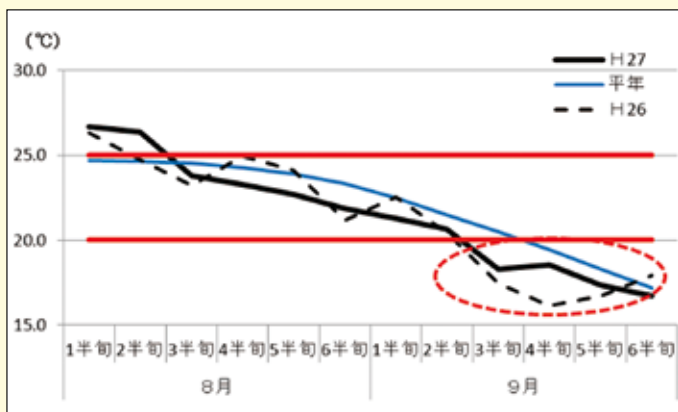
# 平成27年産の品質要因

## 品質要因図

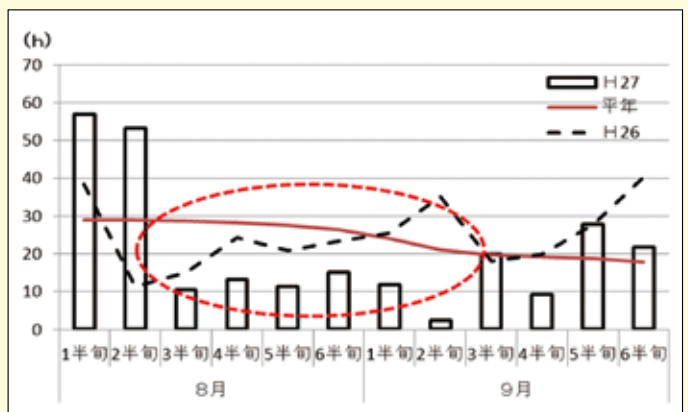


適期中干しを確実に実施した結果、適正な茎数に抑えられ、8月中旬以降の低温傾向による登熟不良の影響を受けながらもコシヒカリ1等級比率は89%となりました。一方、中干し開始が遅れた場合はやや茎数過剰、籾数過剰となり、低温の影響を大きく受けて登熟歩合が低下しました。

## 品質低下要因



8月～9月の半旬別平均気温 (守門アメダス)



8月～9月の半旬別日照時間 (守門アメダス)

9月2半旬までは平均気温で20°C以上を確保したものの、9月3半旬以降は20°C以下となりました。

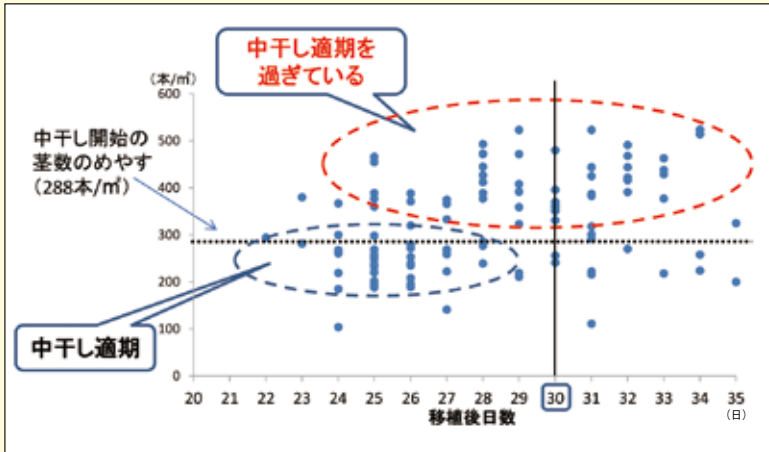
8月2半旬までは平年以上の日照時間。一方、8月第3半旬～9月2半旬までは日照不足となりました。

↓  
出穂期の遅い高標高地ほど日照不足・低温の影響を受けました。

# 平成28年度最重点対策

## 適期適正中干しによる茎数過剰の抑制

平成27年度は一部生育過剰・籾数過剰傾向であったところに、8月中旬以降の低温・日照不足が加わり、除青未熟、青未熟が多発したと思われることから、茎数過剰の抑制が最重点対策です。



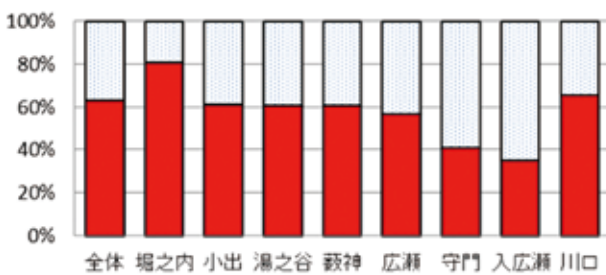
- H25～27のいずれの年も、移植後30日でも中干し開始目安（288本/m<sup>2</sup>）の茎数を越えているほ場が多く見られました。（左グラフの赤枠で囲った部分はすでに中干し開始目安を過ぎており、移植後30日を経過する前の24～27日頃に中干し開始できるほ場が多く見受けられました。）
- 近年、移植後の好天が続いている中、田植からの経過日数ではなく茎数の確認により、中干しを実施する必要があります。

## 土づくりの推進

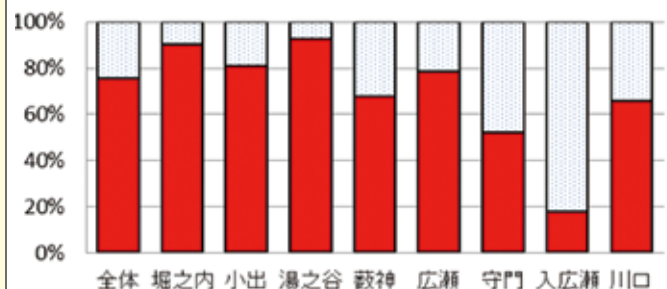
### ○地域やほ場に適した土づくり肥料の活用

平成27年度は結果的に低温年となりましたが、地球温暖化による高温傾向は変わらず、一方で水田で特に重視される下記診断項目は土壌分析結果から不足している成分が明らかとなっており、品質食味低下への影響が懸念されます。土壌分析を実施し不足成分を確認した上で、経費を抑えつつピンポイントでの土づくりを最重点対策と位置づけ実施してください。

#### 有効態ケイ酸の分析結果（地点率）



#### 遊離酸化鉄の分析結果（地点率）



グラフの赤い部分は目標値に対して不足している地点の割合を示しています

- 「有効態ケイ酸」と「遊離酸化鉄」は稲の根の活力を維持する効果があり、近年の高温登熟条件下で品質向上を図るためには、根の活力維持による、後期栄養の確保が重要です。
- 「有効態ケイ酸」は低温年においても稲体を強く丈夫にすることから、いもち病への抵抗性を高めるとともに、光合成能力が高まり収量・品質を確保する効果があります。

※対策については、あぐり～ん1月号稲作情報にて掲載しております。ご覧ください。

# 28年度対策の実践

## 1 運動・意識の統一

- 。地域農業戦略推進集会の開催。
- 。作柄検討会の開催を通じた反省点の共有。
- 。栽培期間に合わせた各種のぼりの掲示。
- 。常時湛水運動の推進による安全・安心の取組。



◀作柄検討会



地域農業戦略推進集会



のぼり掲示による啓発活動

## 2 栽培技術情報の提供

- 。各種研修会の実施  
(平成27年度実績 全体研修5回  
地区別あぜ道研修会 延67会場)
- 。新聞折込みチラシによる稲作技術情報の提供



あぜ道研修会



稲作情報



育苗研修会



携帯メール

登録専用アドレスに「名前」「集落名」を記載しメールを送信してください。

【登録専用アドレス】

inasaku@ja-kitaunuma.com

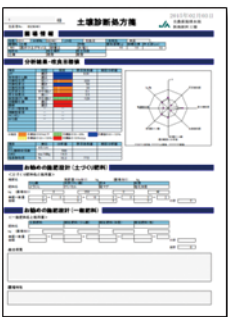


## 3 携帯メールによる迅速な情報提供

- 。会員数886名(平成28年1月末現在)
- 。情報提供回数54回(平成27年度実績)

## 4 調査・分析

- 。生育調査の実施
- 。刈り取り適期判定器の設置
- 。斑点米カメムシ類発生状況調査  
(性フェロモントラップの設置)
- 。土壌分析の実施とデータのフィードバック



土壌診断処方箋



生育調査



性フェロモントラップの設置

# 目指せ、1等級比率95%以上!!!